

「木組とはなにか」

日時：2019年11月23日[土・祝]

14:00～16:00 (13:30開場)

会場：ラッセホール2階大会場
(神戸市中央区中山手通 4-10-8)

講師：阿保昭則 (大工棟梁/耕木杜代表)

須田賢司 (木工藝家/人間国宝)

横田栄一 (建具師/栄建具工芸代表)

司会：谷直樹 (大阪くらしの今昔館館長)

日本の木組は、建築にとどまらず、建具や家具における指物、また工芸品の世界でも重要な技法のひとつです。それぞれの分野の職人が長い時間をかけて技を磨き、木組の強さや美しさを追求してきました。本講演会では、大工、工芸、建具と、木に関わるさまざまな職人の視点をとおしてその分野の職人ならではの話を聞き、それぞれの職種における木組の特徴を対比させつつ、「木組」の多様性や意味、面白さを探ります。

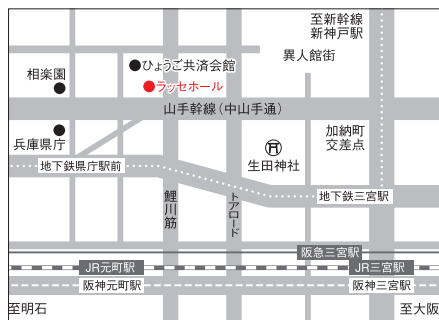
日時 | 2019年11月23日 [土・祝] 14:00~16:00 (13:30 開場)
 会場 | ラッセホール 2階大会場 (神戸市中央区中山手通 4-10-8)
 定員 | 当日先着 200名 (申込不要)
 参加費 | 無料 (竹中大工道具館入館の場合、別途入館料が必要)

司会

谷直樹 (たに なおき)



1948年兵庫県出身。京都大学工学部建築学科、同大学院工学研究科修了。大阪市立大学名誉教授、大阪くらしの今昔館館長。日本建築史・住文化史・博物館学を研究。日本建築学会賞(業績)、日本建築学会教育賞(教育貢献)、日本建築学会著作賞など受賞多数。主な著書に『中井家大工支配の研究』、『いきている長屋：大阪市大モデルの構築』ほか。NHKドラマ「あさが来た」「まんぷく」などの風俗考証も担当する。



- 〈アクセス〉
- 神戸市営地下鉄「県庁前駅」下車、徒歩5分
 - JR・阪神「元町駅」下車、徒歩8分
 - JR・阪急・阪神・神戸市営地下鉄「三宮駅」下車、徒歩15分

〈会場お問合せ〉
 ラッセホール TEL: 078-291-1117
 神戸市中央区中山手通 4-10-8

講師



阿保昭則 (あぼ あきり)

1956年青森県出身。耕木社(千葉県茂原市)代表。白山山地の麓に生まれ小学生の時に大工の鮑仕事に感動、中学卒業と同時に住み込みで大工の修行に入る。職人としての責任、仕事の質の高さを目指して2000年1月耕木社を設立。自然の材料、自然の形の美しさにこだわり、異分野の仕事にも垣根を超えて交流し、手仕事の味が伝わる建築を心がけている。



須田賢司 (すだ けんじ)

1954年、祖父・須田桑月から続く木工芸家に生まれる。1973年から父・須田桑翠に師事し、指物技法を習得。母方の祖父からは漆芸を学ぶ。2010年紫綬褒章受章、2014年重要無形文化財「木工芸」保持者(人間国宝)に認定。現在、群馬県甘楽町に工房を構える。ニューージーランドやスウェーデン、デンマークでのワークショップ等、海外文化交流にも力を注ぐ。



横田栄一 (よこた えいいち)

1941年名古屋生まれ、長野県出身。栄建具工芸(長野県長野市)代表。父親は江戸指物職人であったが、16歳で建具の道に進み基礎を習得し、23歳で組子細工の道へ進む。25歳で独立、数多くの弟子を育てる。一般の建具職人がやりたがらない組子細工を主体に手掛け、一職人としての立場を堅持しつつ、組子で精緻な絵画を描く手法を確立する。

展覧会案内

[竹中大工道具館開館 35周年記念巡回展]

木組

分解してみました

2019 SAT 10/12
 12/15 SUN

TAKENAKA CARPENTRY TOOLS MUSEUM
 公益財団法人竹中大工道具館

竹中大工道具館 1F ホール

開館時間 = 9:30 ~ 16:30 (入館は16時まで)
 休館日 = 月曜日 (祝日の場合は翌日)
 入館料 = 一般 500円、大高生 300円、中学生以下無料、65歳以上の方 200円 ※常設展観覧料を含む

日本に息づく木組の精神。しかしでき上がった作品の表面からでは世界に誇る職人の木組の技術や美意識は見えてきづらいものです。そこで本展では、いろいろな木組を分解してみました。職人の手仕事ならではの美意識と心遣い、そして無垢の木ならではの柔らかな風合いと繊細さ。それら木組の魅力が伝われば幸いです。

